

教科名	技術・家庭科	校 種	中学校
-----	--------	-----	-----

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
2 年	技術・家庭	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3 年	技術・家庭	必	1	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名（教科名）	技術家庭（技術家庭）				
担当教員	平尾 三和子				
学年	1	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	〈技術・家庭分野〉×〈ガイダンス〉 〈家庭分野〉 第1章 家族と家庭生活 A 家族・家庭と子どもの成長 D 身近な消費生活と環境 〈技術分野〉 第5章 情報に関する技術		・ 中学生としての自己の生活の自立を図る ・ 家族のこと、家庭の生活を考えてみよう、家族のかかわりとコミュニケーション、家庭と地域のつながり、家庭生活を支える施設・サービス・活動、将来の自分の家族や家庭 ・ 私たちの消費生活、家庭生活と環境 ・ コンピュータの基本、情報に関する技術と将来の課題
2 学 期	C 衣生活・住生活と自立 第2章 わたしたちの住生活 第3章 生活を豊かにする工夫 B 食生活と自立 第1章 健康と食生活 第2章 献立作成と食品の選択		・ 住まいのはたらき、家族の生活と住まい ・ 安全な住まい方、健康を守る住まい方の工夫 ・ 住宅の設計（クライアントの要望をかなえる家の設計とプレゼンテーション）・生活の課題と実践 ・ 食生活を考えよう、栄養素の種類とはたらき ・ 食品に含まれる栄養素、1日分の献立作成 ・ 調理の基礎
3 学 期	第3章 日常食の調理と 地域の食文化		・ 食品の選択と購入 ・ つくってみよう（調理実習） だしの取り方・主食の調理・主菜の調理 副菜の調理・汁物の調理 ・ 地域の食材をみつめよう ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	
	【創造する能力】	生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	
	【生活の技能】	生活に必要な基礎的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身につけている。	
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。		
教科書・ 副教材等	●教科書： 技術・家庭 「家庭分野」（教育図書） 「技術分野」（東京書籍） ●問題集： なし ●副教材： なし		

科目名（教科名）		技術家庭（技術家庭）			
担当教員		山本 美命			
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	＜技術分野＞ 第2章 エネルギー変換に関する技術		・ エネルギーを取り出す技術 ・ 電気エネルギーの利用 ・ 電気回路のはたらき ・ これからのエネルギー変換 ・ エネルギー変換を利用したものづくり
2 学 期	＜技術分野＞ 第3章 生物育成に関する技術 第2章 材料と加工に関する技術		・ 生物育成の技術 ・ 簡単な野菜づくり ・ 生物育成と環境・社会とのつながり ・ アイディアを生かす製品の設計 ・ 身近な材料で簡単なものづくり
3 学 期	第2章 材料と加工に関する技術		・ 身近な材料の特徴 ・ 強さを高める構造 ・ 工具の特徴と加工 ・ 木材、金属を使った簡単なものづくり ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心をもち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	
	【創造する能力】	生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	
	【生活の技能】	生活に必要な基礎的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身につけている。	
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。		
教科書・ 副教材等	●教科書：技術・家庭「家庭分野」「技術分野」（教育図書） ●問題集：なし ●副教材：なし		

科目名（教科名）		技術家庭（技術家庭）			
担当教員		平尾 三和子			
学年	3	単位数	1	必修・選択・展開	必修

■ 授業の目的

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	＜家庭分野＞ C 衣生活・住生活と自立 第2章 わたしたちの衣生活 第3章 生活を豊かにする工夫		・製作実習の基礎 （ミシン縫いの基礎、巾着袋の製作） ・生活の課題と実践
2 学 期	＜家庭分野＞ C 衣生活・住生活と自立 第3章 生活を豊かにする工夫 D 身近な消費生活と環境 第1章 わたしたちの消費生活		・日常着の製作 ・持続可能な社会をめざして
3 学 期	C 衣生活・住生活と自立 第3章 生活を豊かにする工夫 A 家族・家庭と子どもの成長 第2章 幼児の生活と家族		・かぎ針編みの基礎 （環境にやさしいくらしの実践）（エコたわしの製作） ・幼児の心身の発達、幼児の生活の特徴 ・幼児の生活習慣、幼児と遊び、幼児の発達と遊び ・幼児の遊びを支える、幼児とのふれ合い ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心を持ち、生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	
	【創造する能力】	生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。	
	【生活の技能】	生活に必要な基礎的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかかわりについて理解し、知識を身につけている。	
評価の 方法と 割合	●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。		
教科書・ 副教材等	●教科書： 技術・家庭 「家庭分野」「技術分野」（教育図書） ●問題集： なし ●副教材： なし		